

R7年度 とうきょう すくわくプログラム



ひよこハウス豊田

<テーマ>

音（0才～2才）

<テーマの設定理由>

日頃より音楽を保育の中に取り入れ、自ら身体で表現を好む子どもたち、今まで聞いたことのある楽器の音をはじめ、初めて聞く楽器の音に触れることにより興味・関心を深めていく。自由表現のもとひとつの曲をみんなで奏でる心地よさを味わう。

<活動スケジュール>

R7、8月～

*こども達の反応を記録し活動を写真におさめる

- いろいろな楽器を準備する
- 普段乳児ではなかなか触れない楽器にも触れてみる
- 楽器だけを見せて、見えない状況で音を出し、どの楽器かな？と問う
- 好きな楽器で9月にミニ発表会を開催、12月のお楽しみ会で保護者へも発表

<活動のために準備した素材や道具、環境の設定>

準備したもの：音響セット・和太鼓・ツリーチャイム・タンバリンなど
環境設定：いろいろな楽器を並べるため、ホールに机を並べ楽器を設置

<活動の内容>

- ☆楽器に触れる前に、音だけを聞き、どの楽器の音かな？を問う
- ☆使い方を説明せず、いろいろな楽器にふれてみる
- ☆全種類の楽器に触れ、自分のやってみたい楽器を選ぶ
- ☆正しい使い方を学ぶ
- ☆おもちゃのチャチャチャでミニ合奏会を開催し、全職員と園児に発表する
- ☆12月のお楽しみ会で保護者に発表する

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

☆目の前に楽器を並べ、見えないところで音を出し「この音はどの楽器かな？」と問うところから始めた。
静かに音を聞く姿があった。

和太鼓の太く大きな音には、驚く子どももいたが「すごい、やってみたい」という声があった。また、強く叩いた音と優しく叩いた音、どうだったか問いかけると「強く叩いた方が音が大きかった」と音の変化に気づいた。

ツリーチャイムの音には「きれい」「キラキラ音」と表現している子どもがいた。

☆実際に興味のある楽器から触れてみる。
見慣れない楽器が人気で自然に順番の列ができていた（2才）
小さい太鼓と大きな和太鼓の音の大きさに気が付いた（2才）
トライアングルの三角も持つと、音が出ないことに気づく（2才）
小太鼓のバチを両手で持ち、慣れた手つきでたたき始めた（1才）
カスタネットを机に置いたままたたく（0才）
鈴を手を持ち、音を楽しむ（1才）

☆正しい使い方を教える
ツリーチャイムやトライアングル、カスタネット、ウッドブロックなどの使い方を教え、保育士の真似をして、音を楽しんでいた。

☆音楽に合わせてながら練習を始める。
子どもたち同士で歌い、チャチャチャのところで手をたたいていた

<振り返りによって得た先生の気づき>

0才児、自分たちの手で叩いて音が出ることに気づいた時の驚き等、色々な表情が見られ、これからも色々な音に触れる機会を作っていきたいと思った。

自由に触れて音を出してみる機会を設けると、好奇心で今まで触れたことのない楽器が人気となっていた。

初めて聞く・触れる楽器で、自分が鳴らした時の嬉しそうなキラキラ表情が見られた。職員や保護者向けの発表会の場では、クラスのみんなで1つの曲に合わせて演奏するという一体感や達成感を感じることができた。

生の楽器・音に触れることの大切さを改めて感じる内容であった。

